

# 1週間ワークショップ 未来工房 ミラリエ

ミライノアトリエ

明治大学生田VCこなら楽舎 里山班主催  
2012年10月11日～17日 参加者15名  
10/5説明会10/11チーム分け10/13中間発表10/17最終発表



社会問題を見つめ、自ら考え、動き、形にしていける契機を生み出すことを目的に、学生スタッフ里山班の宮寺(農学部4年)が中心となり、一般学生を対象にワークショップを開催しました。「里山」をテーマに様々な角度から「未来」について考える企画です。調べる・計画する・伝えるをキーワードにチームをつくり、初めて会った人同士のコミュニケーションからスタートしました。

## 調べる



落ち葉の循環

樹木→落葉→土壌という自然の循環から、イメージするものを集め、考察。  
自然を想う心が、人の精神の安定につながり、排他されがちなものも必要不可欠なことを説明しました。

## アドバイザー



里山着

山間部で着用されていた山着を調べ、作業内容に合わせた機能性や大切に着る工夫を紹介。  
現代の里山保全活動に応用すべく、デザインを検討してはどうかと提案しました。

## 計画する



バッタのリゾート計画

一種の生物を守るための保全をしても、結果的に自然は成り立たなくなり、その生き物に良い結果にならないことをす劇であらわしました。  
多様性を重視し、自然の生態をよく知っていく必要があるとまとめました。

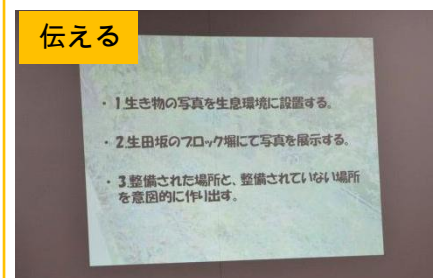
## アドバイザー



民話から読み取る里山の暮らし

民話の聞き取りの困難さと必要性。伝える技法とディフォルメの中に忠実に残す表し方について、絵本の読み聞かせて伝えました。  
差別や貧困、山への畏敬など民話の深さを話しました。

## 伝える



生田坂アート

興味のない人に知ってもらいたい。生田構内の自然の豊かさを伝えるため、通学経路である生田坂にアート空間を出現させる構想を発表。  
楽しめる環境啓発の企画を立てました。

1週間の限られた時間の中で、学部も学年も違う学生がお互いを出し合い、形に仕上げていく様は、相手への信頼と余力のなさとの戦いでした。

協力してくれる人を巻き込んで、発表までこぎつけた満足感は、自信につながり、参加者から「一人ではできなかった。無理だと思っていたことも、助け合えば出来ると思った。」「ワークショップで計画したことを実現したい。」「これをきっかけに環境保全に関わりたい」などの感想がありました。

こなら楽舎の学生スタッフは、多くの学生が自主的に行動するきっかけを作るため、様々な企画をしています。参加者の皆さんの今後の活動を楽しみにしています。 記:こなら楽舎 本間